

仰いで天に愧じず （原）

仰いで天に愧じず（ことわざ辞典より） （読み） あおいでてんにはじず
 （意味） やましい点などさらさらなく、世間に対して恥ずべきことがまったくないこと。
 （次号） 生きとし生けるもの

準五級以上

里ふりて柿の木

もたぬ家もなし

※用具（つけペン）

左の初級課題では学びの基本として、楷書がきちんと書けるように癖のない字を学んで下さい。
 その後準五級になりましたら右のやや行書体を学びますが、「行書や連綿体には興味がなく、楷書で
 きちんと字が書けるようになりたい」と希望する方が多くなりました。
 ※準五級以上の方は、十九頁の左の課題でもよいです。好きな書体を選んで下さい。

初級（六級より初出品迄）

※用具（つけペン）

た	里
ぬ	ふ
家	り
も	て
な	柿
し	の
	木
	も

（原文） 里ふりて柿の木もたぬ家もなし（松尾芭蕉）
 （意味） 豊かに色づいた柿の木が方々の家にみられる、というのである。上野には柿の木が多い。
 （次号） 硯かと拾ふやくぼき石の露（松尾芭蕉）